

稲むらの火の館と和歌山県立文書館 共催による「稲むらの火講座」開催

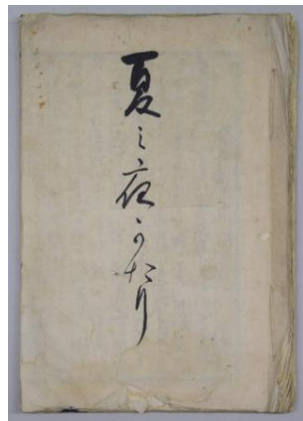
「第18回稲むらの火講座」のご案内

「第18回稲むらの火講座」開催のご案内です。
標題にありますように、今回は和歌山県立文書館
との共催となりました。

「稲むらの火講座」はこれまで、「館」からそ
れぞれの講師先生にお願いをして参りました。今
回も同様に県立文書館の砂川佳子文書専門員に
お願いをいたしました。砂川先生には、広川町内
の渋谷家から発見した古文書「夏の夜かたり」を
解説していただきました。この古文書には、安政
南海地震津波の際の様子や、広村堤防建設につい
て書かれていました。特に堤防の中に「がれき」
を埋め込んだという新しい情報が書かれていま

して、内容を発表した時
には多くのマスコミが
取材に来館され、大きく
報道してくれました。

砂川先生は、令和3年
2月に広川町役場3階
で開催された「和歌山県
立博物館施設活性化事
業実行委員会」と「和歌



山県立博物館」が主催された「歴史から学ぶ防災
2020-命と文化遺産とを守る-」現地学習会
でも、このことに対するご講演をしていただいた
のですが、多くのテーマを発表する会合だったた
め、短時間の発表でした。そこで、せっかくの貴
重な資料の発見ですので、ゆっくり詳しくお話し
いただきたいと考えお願いしました。

この度、当館からの依頼に対して、県立文書館
も共催として開催しようとなった次第です。

「夏の夜かたり」につきましては、解説いた
いた後、令和2年10月号から「やかただより」
へ連載しましたので、皆様にはお読みいただいた
方もおられると思いますが、今回のご講演で丁寧
に解説していただけるものと思います。

前項で、今回の開催について詳しく書きました
ので、ここでは講師砂川佳子先生を御紹介いたし

ます。砂川佳子先生は、和歌山県立
文書館の文書専門員(副主査)をされて
います。京都芸
術大学卒業、同大
学院修了後、大阪
府や和歌山県内で
古文書調査に携わ
りながら、カルチ



ャーセンターや大学で講師を勤めたのち、平成
31年4月から現職に就きました。文書館では、
古文書、デジタルアーカイブ、公文書の収集や利
用を担当されています。稲むらの火講座の日程は、

日時 令和4年10月9日(日) 13:30~15:00

場所 稲むらの火の館3階

演題 『「夏の夜かたり」-地域資料からみる
濱口梧陵と廣村-』

新型コロナ感染拡大を防ぐため、定員は60名
といたします。今回は県立文書館との共催ですの
で、「県民の友」等でも広報されています。県内
各地からも来られる可能性があります。聴講を希
望される方は、必ず申込をしてください。申込順
といたします。

お問い合わせ、申し込みは稲むらの火の館
(電話0737-64-1760)へお願いします。

<古文書・古写真>ありませんか

皆様のお宅に、古い時代の手紙等の古文書は
ありませんか。また、昔の写真もあればお知らせ
ください。自分で思っている以上に、歴史を知る
貴重な可能性があります。お知らせください。

百世安堵

関西大学社会安全学部 近藤誠司

第18回 「線状降水帯」情報のテクスチュア

「線状降水帯」とは、次々と発生する発達した雨雲が列をなした積乱雲群によって、数時間にわたってほぼ同じ場所を通過または停滞する、強い降水をともなう線状の雨域を指す。2022年6月から、この「線状降水帯」に関する気象庁の情報提供の内容が改訂された。端的に言えば、これまでは「実況」だった（すでに発生していることを伝える）ものが、「予測」も加える（「半日から6時間前」の時点で発生危険を伝える）ということである。

この改訂の際に、現時点のテクノロジーで、どれくらいの“的中率”が見込まれているのかも公開された。ニュースを注意深く見ていた人ほど、「おやっ？」と思ったのではないだろうか。今一度、その的中度を示しておく、▽全国単位で2回に1回程度、▽地方単位で4回に1回程度となっている。打率が2割5分の選手を、われわれはスタメンとして起用したことになる。しかもこの選手は、情報を発表していなくても線状降水帯が発生してしまう失敗、いわゆる“見逃し”の確率も、3回に2回程度あるとのことであった。

さてここまで聴くと、多くの人は「なんでそんな粗雑な情報を発出することにしたのか？」と、いぶかしく思うに違いない。だからこそ、この情報のテクスチュア（肌触り）を共有しておく必要がある。背景には、毎年のように豪雨災害・土砂災害が起きており、人的な被害が一向に無くならないこと、さらに今後はもっとシビアな気象の極端化現象が見込まれていて、被害を軽減化することが困難になっていくという危機感がある。

空振りや見逃しがあつたとしても、少しでも役に立ってくれたらという切なる思いで、この選手（線状降水帯の情報）をバッテリーボックスに送り込んだのだ。多くの人がこの願いや祈りを共有すれば、きっと良い選手に育ってくれるに違いない。

「ペッパー」が交代しました

稲むらの火の館の人気者、「ペッパー」が任期満了につき交代しました。新しく着任したら、改めて初期設定しなければなりません。休館日に教育委員会の谷口さんと戸石さんがセットアップしてくれました。

新任の「ペッパー君」写真のようにジェスチャーはこれまでと違って、よく動き華やかです。言葉は、最近よく言われる「AI」が話す



のでしょうか。言葉づかいは少々おもしろいです。それはロボットだからと言われるのでしょうか。ゲームやクイズなどにチャレンジすると、これまで以上にペッパーと遊べて楽しいです。いや、ペッパーに遊ばれているのかもしれないね。

ペッパーは、あちこちのお店にもありますが、注文聞きなど一方的な仕事ロボットですよ。それはそれで今の時代良いのですが、一緒に遊べるペッパーはそんなに多くないです。皆さん、これまでよりも成長した「ペッパー君」と遊びにお越しください。

「時空旅人」に掲載されました

歴史書でしょうか。「時空旅人」2022. Vol. 69という雑誌に「梧陵さん」が取り上げられました。一般的にはあまりなじみがない本のようなのですが、近隣書店で購入できます。

「館」では閲覧コーナーに置いてあります。手にとってご覧いただけますのでご利用ください。



『時空旅人』Vol. 69 発行・発売/三栄
編集/プラネットライツ